

先人も疫病と闘った — 近代前半の伝染病 —



久しぶりの防災フェス展示だね。コロナウイルスへのワクチン接種や他の感染対策もとられているけど、感染の波はまだまだあるようだよ。

コロナウイルス感染累計【日本】
(2022年6月1日0時現在 厚労省HP)
・感染者数= 8,850,282人
・死亡者数= 30,618人

そうだね。今回の展示はかつての伝染病パンデミックのことです。



そこから現代の私たちも学ぶものがありそうだね。

そう思って調べてみました。かつての人々も多くの犠牲を出しながら懸命に取り組んだのですが、そこには現代と共通する施策や問題がいくつかあったんだよ。



伝染病の特徴

(国立感染症研究所、厚生労働省等のデータによる)

【コレラ】：コレラ菌による経口感染で、強烈な下痢や嘔吐によって深刻な脱水をひきおこします。江戸時代末期、ペリーが長崎に来航した時に、コレラに感染していた乗組員の一人から広がりました。1ヶ月後には江戸に、2ヶ月後には東北に拡大しました。その後も度々わが国では流行しました。

【天然痘】：天然痘ウイルスの飛沫や接触によって感染します。発熱、頭痛、嘔吐を繰り返し、顔や四肢に皮疹を残します。肺炎や脳炎などの合併症を起こすことも度々でした。1980年にWHOが根絶宣言をしました。日本の古代では藤原氏の中心人物、戦国期には伊達政宗、近代には夏目漱石なども罹りました。

【赤痢】：赤痢菌による経口感染で広がります。発熱、下痢、腹痛を起こします。上下水道の衛生管理が十分でなかった時代、井戸を使っていた時代には時々発生しました。

【ペスト】：マウス(ネズミ)などの体内に生息するペスト菌による伝染病です。マウスにとりついたノミが人に感染させます。人同士は飛沫によって感染します。リンパ節の腫れや高熱を起こします。ヨーロッパでは時々流行し、1度に数千万人の犠牲を出しました。日本では19世紀末~20世紀初頭に大流行しました。

【麻疹】：いわゆる「はしか」のことです。麻疹ウイルスの飛沫、接触、空気感染し、高熱や発疹を引き起こします。脳炎や肺炎などの合併症を引き起こすことも稀ではありません。近年でも時々発生しています。

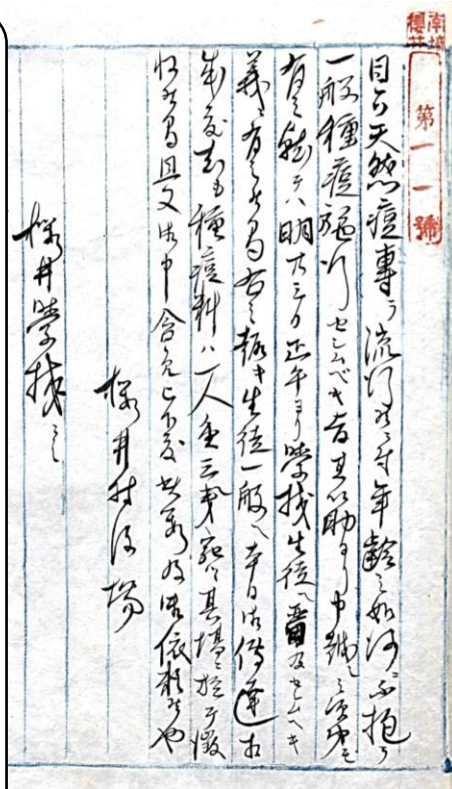
【結核】：エジプトのミイラからも結核の痕跡が見つかったことがあるそうです。わが国でも古くから見られる病ですが、特に明治期の産業革命頃から都市部において患者が増加しました。戦前までは「不治の病」として恐れられましたが、有効な薬が開発されて、初期の段階で治療を開始すれば命をながらえることができるようになりました。この数年、1年間の結核死亡者数は全国で2,000人前後です。近年、国内動物園の象が結核に感染していることがわかりました。

史料は語る

(1) 学校での種痘実施

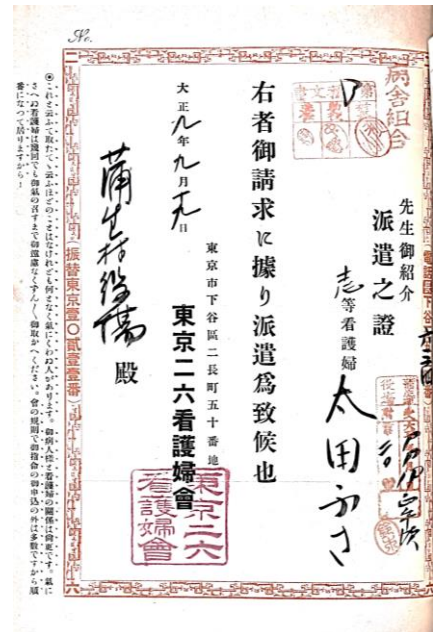
種痘を子どもたちにも受けさせるために、学校でも行うことを桜井村役場から桜井学校に通知したものです。料金3銭をその場で徴収するとあります。(当時、米10kgが約90銭)

桜井学校は大泊学校として明治十九(1886)年に開校した学校で、今の桜井小学校です。子供たち以外はどこで接種したのでしょうか。(最後のパネルを、参照ください。)



明治30(1897)年1月

(2) 看護婦派遣状



大正9(1920)年9月

いわゆる“スペイン風邪”の時に、浦生村外ニヶ村組合隔離病舎への看護婦派遣要請に対しての派遣状です。

(パネル1, 2, 3-(1)をご参照下さい)

おわりに



いやあ、毎年のように伝染病が流行していたなんて・・・そういう中で懸命に対策し、生活をしていたことがわかったよ。

病舎建設では郡と町村、その住民との摩擦も度々あったこともわかったよね。それを受けとめながら、よりよい方向へと努力した様子が見えました。



それは貴重な記録が残っていたことで、現代の私たちが学べたんだね。今のコロナについても、いろいろな角度から記録しておくことが大事だね。

ところで、2年前の初夏、コロナウィルス感染が起こって半年の頃、次々に亡くなる人がいて医療スタッフも遺族も心が折れそうになった時に、イタリア・クレモナの病院屋上で奏でられたバイオリンの調べに、世界中の人が感動したことがあったね。ある国の大臣は「創造的な人々の創造的な勇氣は危機を克服するのに役立つ」と言ったけど、確かにそうだなあ。



100数十年前、100年前にも戦争があり、今も地球のあちこちの戦争で多くの人が命を落としている中で、コロナウィルス大流行が起きています。さらに温暖化によって新たな病原菌も現れるかもしれないと思うと、これから私たちがどうしたらよいかを、先人たちが示唆してくれているようです。

今日のご来館、ありがとうございました。

